

こっこめ通信 02 2016

「少ないから大変」号



八丈島ではアカコッコのことを親しみを込めて「こっこめ」とよびます。

年明けからずっと暖かった八丈島ですが、24日の大寒波で最低気温が1.3℃まで下がりました。普段、寒くなっても降ってくるのは霰^{あられ}が多いですが、今回はフワフワとホンモノの雪が舞ってきました。もしかして積もる？と少し期待しましたが、山頂付近に少し積もったくらいでした。調べてみると最低気温が2℃を下回るのは4年ぶり。ものすごく久しぶりのような気がしましたが最近ですね。八丈島、結構、気温下がります。

さて、今回は「八丈学講座『冬鳥を探そう！』」「講演会『日本の野生ラン～何が希少性を生んだのか？～』」についてのお話です。

八丈学講座「冬鳥を探そう！」

ビジターセンターでは、いろいろな切り口から島をよく知ってもらおうと、毎月第四土曜日に八丈学講座を開催しています。八丈学講座は毎月違った話題で開催していて、1月は秋に北から渡ってきて越冬し、春に北へ旅立つ「冬鳥を探そう！」でした。

今にも降り出しそうな空の下、植物公園内やメインエントランスの西にある大賀郷園地で冬鳥を探しました。しかし、園内では渡ってきてる鳥がまったく見つかりません。観察できたのは大賀郷園地のアトリ、タヒバリ、ノスリの3種だけでした。それでも高倍率の望遠鏡でアトリの雌雄の判別をしたり、留鳥の観察をして楽しみました。今年は暖冬の影響か渡ってくる鳥が少なく、渡って来た鳥も島に留まらず、さらに南下してしてしまったようです。当日観察できませんでしたが、今シーズンは、アオサギ、オオカワラヒワ、ハクセキレイ、キセキレイ、チョウゲンボウ、ミサゴ、オオバン、イソシギ、ムナグロ、ジョウビタキ、ウミウ、ツグミなども島で越冬しています。

八丈島で見られる冬鳥は年によって種類や数がまったく違います。秋に渡ってくるカモ類は、冬には旅立ってしまうことが多いですが、漁港に来る潜水性のカモは越冬することがあります。その他には、マヒワ、ウソ、カシラダカ、アオジなどが越冬することが多いです。また、ヒヨドリやメジロも留鳥ではない渡ってきている個体群が越冬していると思われます。

さて、来シーズンはどんな鳥が越冬してくれるのでしょうか？

渡りに関する鳥の呼び方

留鳥		1年を通してその場所に留まり、繁殖する鳥
渡り鳥	夏鳥	春に南から渡って来て繁殖し、秋に南に戻る鳥
	冬鳥	秋に北から渡ってきて越冬し、春に北に戻る鳥
	旅鳥	渡りの途中に立ち寄り、休憩したのち旅立つ鳥
	迷鳥	本来の渡りのルートから外れて降り立った鳥



大賀郷園地で観察中



アトリ



タヒバリ



オオカワラヒワ



ノスリ



チョウゲンボウ



ハクセキレイ

「アカコッコ」は日本固有のヒタキ科（旧ツグミ科）の鳥で、国の天然記念物に指定されています。八丈島では一年を通して見られ、町の鳥にも選定されています。

講演会「日本の野生ラン～何が希少性を生んだのか？～」

1月23日、国立科学博物館 筑波実験植物園の遊川知久博士を講師に迎え、「日本の野生ラン～何が希少性を生んだのか？～」を開催しました。

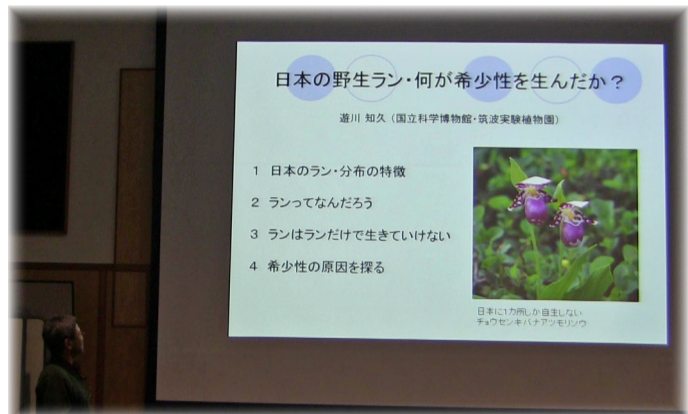
はじめに“日本のラン・分布の特徴”についてのお話がありました。日本のラン科は、同じ程度の緯度の他地域（国々）と比べると面積に対して種数が多く、ずば抜けて**種多様性が高い**ということ。また、国内の他の科の植物と比べると**分布範囲が広い**にもかかわらず、**個体数・集団数が少ない傾向**があること。そのため、日本の植物で**絶滅危惧種の最も多い科**になっているということなのです。2003年、伊豆諸島の新島で発見された‘ニイジマトンボ’は遠く離れた中国南西部や韓国・済州島などで見つっていますが国内の他地域では見つからないということです。（八丈島でも、以前に撮影されたものが‘ニイジマトンボ’ではないか？という話もあります）

続いて“ランってなんだろう？”では、ラン科の種が共通して持つ特徴などのお話です。「**花びらの一枚が特殊化し唇弁になる**」「**雄しべと雌しべが合着し蕊柱になる**」「**花粉が集まって花粉塊になる**」「**細かい種子を作る**」「**根は根被を持つ**」はラン科が共通して持つ形質になるそうです。また、ラン科は世界最大の科であり、見た目の多彩さ、暮らしぶりの多様さなども特徴です。

そして、“ランはランだけでは生きていけない”のお話です。ランは、**種子から発芽する時に菌に**、そして**受粉の時に動物の助けを借りなければ**生きていけないこと。しかも**限られた特定の種の菌や動物だけとしか共生できない**ということです。この『しがらみ』が希少性をもたらす要因ではないか？『これらが存在しない環境では世代交代をすることができない』、これが高い希少性を生み出す要因となっているようです。

最後に“希少性の原因を探る”では、‘ムカゴサイシン’を例に挙げてのお話でした。関東地方から琉球列島、韓国・済州島に分布している‘ムカゴサイシン’ですが、自生地は少なく環境省 RDB 絶滅危惧ⅠB 類に指定されています。公園などでも自生が確認されることがあるのに分布が局限されるのはなぜか？そこで人工培養で種子の発芽能力を調べてみると発芽率はとても高いことが分かったそうです。しかし、自生地に埋めた種子の発芽率はとても低くなってしまふ。その**原因は発芽のための共生菌**。DNA を使って共生菌を分子同定してみるとこれまで認識されていない菌のグループであることが分かったそうです。共生できる菌の高い特異性、あるいは希少性が‘ムカゴサイシン’の希少性をもたらしているのではないかと考えられているそうです。ある群落のムカゴサイシンの遺伝子を調べてみると、群落内に2つの遺伝子型を持つ個体しか見つからなかったそうです。これは種子から新しい個体が定着するのではなく、地下茎で繁殖していたということです。このようなことから今後は菌の分布の把握が課題になっているそうです。

『送粉者と菌根菌の特異性が高い上、これらが存在しない環境では世代交代ができないことが、ランの高い希少性をもたらしている』ランだけを守っても保全できず、保全は簡単なことではないようです。



八丈植物公園季節調査会の報告

八丈ビジターセンターでは、毎月第二日曜日に、植物公園の生きものから季節を感じようという趣旨で、「八丈植物公園季節調査会」を開催しています。毎回見られる植物がどのように変化していくか、また、どんな鳥や植物が見られるかも観察しています。2016年1回目の調査は1月10日に行いました。

八丈植物公園季節調査（平成28年第1回） 参加者：鹿児島、柴田、近藤、大塚、沖山美、沖山三、VC 菊池

NO.	和名（島名）	状態	NO.	和名（島名）	状態	NO.	和名（島名）	状態
草本			木本			シダ植物		
1	アオツツラフジ	実	1	アオキ	実	1	イシカグマ	
2	アオノクマタケラン	実	2	イヌビワ	実	2	ウチワゴケ	
3	アキノノゲシ	蕾	3	オオバヤシャブシ	実	3	オオイタチシダ	
4	アシタバ	実	4	オオムラサキシキブ	熟した実	4	オオタニワタリ	
5	イガガヤツリ	実	5	ガクアジサイ	実	5	オニヤブソテツ	
6	イワニガナ	花	6	シマクサギ	実が残る	6	コハシゴシダ	
7	ウスベニニガナ	花と実	7	タイミンタチバナ	実	7	シチトウハナワラビ	胞子葉ナシ
8	エダウチチヂミザサ	実	8	テイカカズラ	割れた実	8	タチクラマゴケ	
9	オニタビラコ	花と実	9	トベラ	はじけた実	9	タチシノブ	
10	カタバミ	花と実	10	ハゼノキ	実が残る	10	タマシダ	塊茎が目立つ
11	コナスビ	花	11	ハチジョウイボタ	実	11	ナチシケシダ	
12	コマツヨイグサ	実	12	ハチジョウキブシ	蕾	12	ノキシノブ	
13	シチトウスミレ	花	13	ヒサカキ	蕾	13	ハカタシダ	
14	セイヨウタンポポ	花と実	14	ヒメユズリハ	実が残る	14	ハチジョウカナワラビ	
15	タネツケバナ	花と実	15	ホウライカズラ	実と実の虫こぶ	15	ハチジョウシダ	
16	チヂミザサ	実	16	ホルトノキ	実が残る	16	ハチジョウベニシダ	
17	ツルソバ	花と実	17	マサキ	実	17	ヒトツバ	
18	ツワブキ	花と実	18	マンリョウ	熟した実	18	ホシダ	
19	テリミノイヌハウズキ	花と実	19	モクレイシ	種子が見える	19	マツバラシ	胞子嚢が目立つ
20	ノジスミレ sp.	花	20	ヤツデ	若い実	20	マメツタ	
21	ハナイバナ	花	21	ヤブツバキ	花			
22	ヒノキバヤドリギ	実	22	ヤブニッケイ	実			
23	ヒメクグ	実						
24	フウトウカズラ	実	今回は、シダ植物 20 種を含む 68 種の植物を観察しました。草本植物の種類が少なく、少しは冬枯れの雰囲気を感じられる行事になりました。					
25	ヘクソカズラ	実						
26	ムラサキカタバミ	花						

八丈島では、内地と少し様変わりした種や独自に進化した種など、聞き慣れない種があるのが特徴です。今回は、とても数の少ない「ハチジョウネツタイラン」にスポットを当ててみたいと思います。



ハチジョウネツタイラン

Tropidia nipponica var. *hachijoensis*

ラン科ネツタイラン属。ヤクシマネツタイランの変種。島の中でもかなり数が少なくなっています。茎の高さは10～30cm。白い花が7月頃に咲きます。花芽のつかない株がとても多いです。

富士箱根伊豆国立公園指定植物、環境省レッドデータブック絶滅危惧Ⅱ類に指定されています。

2016 八丈ビジターセンター 2 プログラムカレンダー

日付の下に書かれている時刻は、八丈島（神湊）の潮の満ち引きの時刻です。
左側が満潮時刻、右側が干潮時刻です。また日付の横は月の満ち欠けです。

日	月	火	水	木	金	土
	 1	2	3	立春 4	5	6 ガイドウォーク
	04:03 10:39 17:51	00:06 04:55 11:34 19:16	02:13 06:29 12:47 20:30	03:38 08:22 14:02 21:25	04:28 09:36 15:03 22:10	05:07 10:26 15:54 22:51
7 ガイドウォーク	 8	9	10	11 ガイドウォーク	12	13 ガイドウォーク
05:42 11:08 16:40 23:31	06:16 11:47 17:25	06:50 00:10 18:10 12:26	07:23 00:49 18:55 13:06	07:57 01:27 19:41 13:47	08:30 02:05 20:29 14:31	09:04 02:43 21:23 15:20
14 ガイドウォーク 植物公園 季節調査会	 15	16	17	18	雨水 19	20 ガイドウォーク
09:40 03:21 22:28 16:16	04:03 10:21 17:26	00:01 04:59 11:16 18:53	02:15 06:44 12:38 20:21	03:50 08:51 14:09 21:27	04:40 10:01 15:19 22:18	05:15 10:46 16:12 22:59
21 ガイドウォーク	22	 23	24	25	26	27 ガイドウォーク 八文学講座 「春を探そう・ ホテル水路ウォーク」
05:45 11:22 16:56 23:35	06:13 11:53 17:35	06:39 00:07 18:11 12:22	07:03 00:37 18:45 12:51	07:26 01:04 19:18 13:20	07:49 01:31 19:52 13:50	08:12 01:58 20:28 14:23
28 ガイドウォーク	29			 この色の日は 特別行事があります		
08:37 02:24 21:09 14:59	09:03 02:53 21:59 15:42					

イベントプログラム

植物公園季節調査会

植物公園内で動植物の調査をしながら季節の変化を一緒に感じましょう！

2/14 (13:30～ 約1時間半)

中学生以上 ビジターセンター集合・解散 無料 定員：15名

八文学講座

「春を探そう・ ホテル水路ウォーク」

毎月行っている八文学講座。和泉親水公園やホテル水路で芽吹き始めた植物などの春を探します。

2/27 (13:30～ 約1時間半)

中学生以上 鴨川ホテル水路集合・解散 参加費：50円 定員：15名

ビデオプログラム

10:00～ 八丈・海・生きものたち

11:00～ おじゃりやれ 八丈島

14:00～ おじゃりやれ 八丈島

15:00～ おじゃりやれ 八丈島

16:00～ 八丈・海・生きものたち

上記以外での上映は予約にて可能です

東京都八丈ビジターセンター 2016.2.1 第177号

開館時間 9:00～16:45 年中無休（入場無料）

〒100-1401

東京都八丈島八丈町大賀郷2843

電話：04996-2-4811 Fax：04996-2-4888

編集後記

むかしむかし、ラン科の植物たちが必要としている菌はあちこちにいたのでしょうか？人の見えないところ、見えていないところで、私たちが知らない沢山の生きものたちが数を減らしているのかもしれない。（高）